

登録コード	UAA07500	開講年度	2026				
授業題目	芸術コミュニケーション論					担当教員	金井 直
						副担当	濱崎 友絵
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・2時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。					芸術文化研究の諸相を、通時的また共時的に、個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題について、客観的・学問的に究明し、理論構築や仮説検証ができるようになる。	
(2)授業の概要	芸術文化研究の諸相を、通時的また共時的に、個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする。音楽については、グローバリゼーションやディアスポラなどのトピックが扱われる。美術については、とくに芸術概念の変容と拡張に注目する。						
(3)授業計画	第1回：ガイダンス 金井 第2回：芸術文化の諸相 濱崎 第3回：芸術文化研究の歴史と方法 金井 第4回：芸術文化研究の現在 濱崎 第5回：方法の適用（芸術生産について）金井 第6回：方法の適用（芸術受容について）金井 第7回：方法の適用（美学的アプローチ）金井 第8回：方法の適用（社会科学的アプローチ）濱崎 第9回：方法の適用（表現実践論的アプローチ）濱崎 第10回：個別研究への展開（身体）金井 第11回：個別研究への展開（社会）濱崎 第12回：個別研究への展開（メディウム・メディア）金井 第13回：ジャンル横断的アプローチ 濱崎 第14回：領域横断的な方法の検討 金井 第15回：総括。芸術コミュニケーション論の可能性 濱崎 期末試験の有無 なし						
(4)成績評価の方法	以下を総合して判定する。 参考資料（含英文）の精読30%と毎回の授業時のディスカッション30%、最終レポート40% 評価割合は若干の調整を行うことがある。 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、非常に高い水準にある。 【やや上にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、高い水準にある。 【その水準にある】芸術コミュニケーション研究に関する基礎的な知識をもとに、資料精読とディスカッションを進めつつ、芸術文化研究の諸相を個々のジャンルと方法に応じて検討し、その現状と課題を明らかにする力において、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	参考資料の精読を求める。また、講義中に紹介した事例（作品）の鑑賞を強く推奨する。						
(7)履修上の注意	自身の関心領域を明確にすると同時に、隣接領域の論文等にも触れながら、芸術研究の多様な方法について、理解を深めておくこと。 自主的に鑑賞経験を積み上げ、多様な芸術表現についての知識と関心を高めておくこと。						
(8)質問、相談への対応	まず以下のアドレスにメールにて問い合わせること。 kanait@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	なし。						
【参考書】	Jerrold Levinson, The Oxford Handbook of Aesthetics, Oxford Univ., 2005. ほか。						